

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	小森（今給黎）佳菜 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】	<p>本論文の目的は、19世紀後半～1920年代におけるモリムラ・ブラザーズのアメリカ市場における日本陶磁器販売の実態を、「ノリタケ・チャイナ」の国際的なブランド戦略として解明することを通して、近代日本企業がどのように国際化を果たした過程を明らかにすることである。</p> <p>当該期のアメリカでは、世界で初めて、多くの人々が同レベルの消費水準にある「大衆消費社会」が実現していた。陶磁器はそれまでの「奢侈品」から「日用必需品」へ変化し、モリムラは生産から販売まで一貫した戦略のもと、ヨーロッパ製品との競合のなかで、トップシェアを獲得するに至ったのである。</p> <p>当該期は、三期に区分できる。第一期はジャポニスムの流行の盛衰に対応した伝統的工芸品販売網の確立期であり、第二期はヨーロッパデザインの安価な日用品小物の大量販売の時期であり、第三期は独自ブランドのディナーセット開発とセールス網の確立である。</p> <p>特に第三期には、大型小売商を通じて全米の家庭へ「ノリタケ・チャイナ」ブランドを浸透させ、価格帯もヨーロッパ製品とアメリカ国産品との中間を狙い、まさに「大衆」を相手としたビジネスを展開した。ここに、モリムラ・ブラザーズが長年に亘り目指してきた日用品販売を実現したのであった。それを支えたのが、現地アメリカ人社員の登用による販売網の確立、デザイナーの活用による独自ブランドの確立、生産から販売までの市場即応型供給システムの確立、であった。</p> <p>在日・在米資料の博捜と活用により、国際戦略の展開過程を克明に解明した点、文化史的視点を取り入れた分析手法において、研究水準を大きく引き上げた論文として評価することができる。</p> <p>審査では、日米の史料を駆使した緻密な実証について高く評価されたが、時期区分の設定をより明確にすることが求められた。筆者は、第一期と第二期の区分を市場構造の観点からより明確にした。また、産業史としてだけでなく新視点を明確にし、文化交流史としての側面を明確にするためにデザインの側面に着目して、モリムラの特徴をより明らかにし、分析の方向性を明示した。</p> <p>審査委員会はこうした修正は妥当なものであると評価した。公開発表における質疑応答も簡にして要を得た適当なものであった。以上の点から、本審査委員会は、本論文を博士論文としての水準に充分達していると判断し、博士（人文科学）、Ph. D. In Modern History に相当するものと認めた。</p>
論文題目	米国大衆消費社会の形成と日本陶磁器輸出戦略の変遷—モリムラ・ブラザーズを中心に—	
審査委員	(主査) 教授 小風 秀雅	
	准教授 神田 由築	
	教授 中村 俊直	
	教授 安成 英樹	
	横浜市立大学国際総合科学部 教授 本宮 一男	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">①. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	